

平成29年1月 東京地区百貨店売上高概況

平成29年2月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,371億円余
2. 前年同月比	-1.5% (6か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-0.6%(92.2%) : 非店頭-10.5%(7.8%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成28年12月対比±0店)
5. 総店舗面積	873,232㎡ (前年同月比:1.8%)
6. 総従業員数	18,644人 (前年同月比:-1.0%)
7. 3か月移動平均値	6-8月 -2.6%、7-9月 -2.6%、8-10月 -4.5%、 9-11月 -3.0%、10-12月 -2.1%、11-1月 -1.3%

[参考] 平成28年1月の売上高増減率は0.2%

【特徴】

- (1) 1月の入店客数は0.2%増、2か月連続で前年を上回ったものの、売上高は1.5%減で6か月連続のマイナス。一部店舗の店休日増や、人気催事の会期ズレがありながらも前年を上回った入店客数のニーズを捉えきることが出来なかった。
- (2) 商品別では主要5品目のうち、好調を継続する化粧品や美術・宝飾・貴金属の堅調などから雑貨が4.0%増で2か月連続のプラスを記録したが、衣料品(-2.5%)、身のまわり品(-4.1%)、家庭用品(-10.8%)、食料品(-1.3%)が前年の確保には至らなかった。
- (3) 1月が売上シェアで最大となる衣料品は、紳士服(+1.5%)が、プロパー・セール問わずスーツやジャケットなどビジネス関連を中心に動きが見られ、6か月ぶりにプラスに転じた一方で、初商やクリアランスではマフラーやストール、手袋などに人気が集まった婦人服(-3.6%)は、重衣料の動きが鈍く15か月連続のマイナスに終わり、回復の兆しが見られた昨年末から再びマイナス幅(昨年11月:-0.6% 12月:-0.3%)を拡大している。
- (4) 2月は春節の月ズレの影響も懸念されたが、バレンタイン商戦の活況をきっかけとした買い回り効果もあり、15日現在で約2%のプラス。月終盤に向けては、昨年がうるう年だったことによる営業日数1日減の影響をどこまでカバーできるかがポイントとなる。

【要因】

- (1) 営業日数増減 29.9日 (前年同月比 -0.1日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した:6店、②変化なし:6店、③減少した:7店
- (3) 1月歳時記(初売り、クリアランス)の売上(同上/有効回答数11店舗)
①増加した:3店、②変化なし:6店、③減少した:2店

東京地区百貨店 売上高速報 2017年01月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	137,170,908	100.0	-1.5
紳士服・洋品	13,432,447	9.8	1.5
婦人服・洋品	29,867,461	21.8	-3.6
子供服・洋品	2,641,658	1.9	-1.5
その他衣料品	2,576,499	1.9	-9.7
衣 料 品	48,518,065	35.4	-2.5
身のまわり品	20,691,873	15.1	-4.1
化粧品	11,592,925	8.5	12.5
美術・宝飾・貴金属	7,717,366	5.6	-0.9
その他雑貨	5,820,881	4.2	-4.2
雑 貨	25,131,172	18.3	4.0
家 具	1,494,418	1.1	-5.9
家 電	599,033	0.4	-27.9
その他家庭用品	4,221,460	3.1	-9.4
家 庭 用 品	6,314,911	4.6	-10.8
生 鮮 食 品	4,224,837	3.1	-4.2
菓 子	8,134,282	5.9	-3.0
惣 菜	6,440,238	4.7	-2.9
その他食料品	9,304,629	6.8	2.8
食 料 品	28,103,986	20.5	-1.3
食 堂 喫 茶	3,126,704	2.3	0.0
サ ー ビ ス	1,842,564	1.3	5.1
そ の 他	3,441,633	2.5	5.0

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商品券	1,844,363 千円	1.1
従業員数	18,644 人	-1.0
店舗面積	873,232 m ²	1.8

営業日数	29.9 日	前年	30.0 日
------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が2か月連続のプラスとなった。また、衣料品が15か月連続、身のまわり品が6か月連続、家庭用品が5か月連続、食料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が22か月連続のプラス、紳士服・洋品が6か月ぶり、その他食料品が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.5	-	6か月連続マイナス
紳士服・洋品	1.5	0.1	6か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-3.6	-0.8	15か月連続マイナス
子供服・洋品	-1.5	0.0	7か月連続マイナス
その他衣料品	-9.7	-0.2	2か月連続マイナス
衣料品	-2.5	-0.9	15か月連続マイナス
身のまわり品	-4.1	-0.6	6か月連続マイナス
化粧品	12.5	0.9	22か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-0.9	0.0	2か月ぶりマイナス*
その他雑貨	-4.2	-0.2	6か月連続マイナス*
雑貨	4.0	0.7	2か月連続プラス
家具	-5.9	-0.1	2か月ぶりマイナス
家電	-27.9	-0.2	2か月連続マイナス
その他家庭用品	-9.4	-0.3	9か月連続マイナス
家庭用品	-10.8	-0.5	5か月連続マイナス
生鮮食品	-4.2	-0.1	11か月連続マイナス*
菓子	-3.0	-0.2	2か月連続マイナス*
惣菜	-2.9	-0.1	7か月連続マイナス*
その他食料品	2.8	0.2	2か月ぶりプラス*
食料品	-1.3	-0.3	2か月連続マイナス
食堂喫茶	+0.0	0.0	13か月ぶりプラス
サービス	5.1	0.1	7か月連続プラス
その他	5.0	0.1	2か月連続プラス
商品券	1.1	0.0	23か月ぶりプラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・橋 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>